



【ふくおか かずよ さん】 大和

●千歳サケのふるさと村教授会の会長。

千歳サケのふるさと村教授会は、平成7年4月に設立された。会社員や主婦、学生など、35人の会員がサケのふるさと館内の案内やイベントの手伝いなど、ボランティア活動を行っている。

市民大使になりませんか



受賞した感謝状

秋の訪れとともに、たくさんのサケが産卵のために、千歳川にあがっています。千歳サケのふるさと館は、川の中を直接観ることができ、水中観察室が備わった水族館です。長い旅を終えて帰ってきたサケを川の中にいるような雰囲気、間近に観ることができます。

「千歳サケのふるさと村教授会」は、サケのふるさと館を支援するボランティアの会です。今年9月には、その功績が認められて、北海道知事から「観光ホスピタリティ実践者等に対する感謝状」が贈られました。

「友達に誘われて教授会に入会してから13年が過ぎました。たくさんの方との出会いがあり、毎日が足早に

過ぎていくようで、とても楽しいです」と話します。

最初は、お客さんに接するときの細かい気遣いなどを先輩から教わって育てられたそうです。「私にとってその方の影響は大きいですね」とふり返ります。

「今年4月から会長になりました。まだまだ自覚が足りず、会議などは苦手になっていますが、会の皆さんのバックアップに助けられています」と、気遣いも忘れません。

福岡さんは、今回の感謝状に「思いもよらない受賞で、びっくりしました。身が引き締まる思いです。会員一同、これからも今まで以上にがんばります」と意気込みを語ります。

サケのふるさと館には、全国からさまざまな方が訪れます。泳いでいるサケを見て「おいしそう」という方やサケの生態などについて質問される方がいるそうです。

お客さんの知りたいことを、的確に答えています。館内の案内をしていると、ほかの観光地への行き方、おいしい食べ物や宿泊先など、いろいろなことを聞かれます。そのときは、千歳の良さを広く知ってもらえるよう「千歳の市民大使」の役割と、思っただけでいるそうです。

「たくさんの方との出会いは楽しいですよ。市民大使に興味のある方、一緒にボランティア活動をしませんか」と、にこやかに話してくれました。

人 の いる 風景
SCENERY OF PEOPLE



KAZUYO
FUKUOKA

福岡

和世

さん